

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立築瀬小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	64人	算数	64人	理科	66人
第5学年	国語	75人	算数	75人	理科	75人

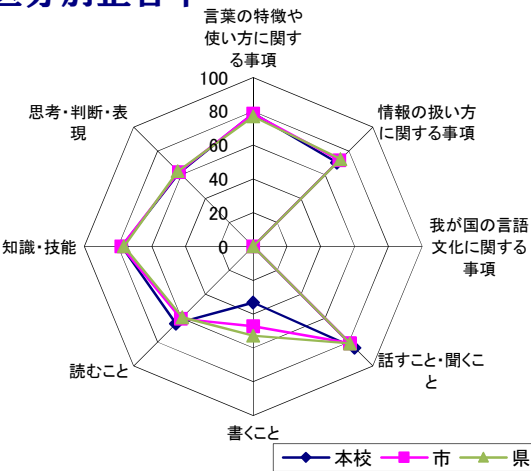
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立築瀬小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.7	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	70.3	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	84.8	81.0	81.1
	書くこと	33.2	47.2	52.8
	読むこと	64.5	60.5	59.3
観点	知識・技能	77.8	78.0	76.5
	思考・判断・表現	61.7	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

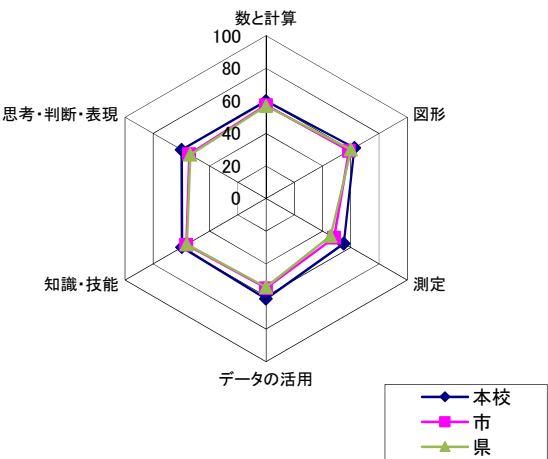
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は78.7%と、市の平均と比べて0.1ポイント上回った。 ○ローマ字の理解に関しては、市の平均を上回っており、正答率も高かった。 ●「主語と述語」においては、正答率が54.7%で、主語についての理解が不十分であった。	・読書活動を充実させ様々な言葉に触れる機会を増やす。漢字の読み書き、主語・述語、語彙については、引き続き指導し、さらに力を伸ばしていく。具体的には、ノートでの漢字練習やAIDリルの活用を通して、漢字の読み書きの力を引き続き高めていきたい。また、ローマ字は、ノートに書く場を設け、さらに力を伸ばしていけるよう繰り返し指導していく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は70.3%と、市の平均と比べて1.9ポイント下回った。 ●国語辞典に載っている言葉の順番の理解が不十分であった。	・国語の授業を中心に、教科書の文章中の語句の意味を児童が理解できているか問いかけながら展開し、分からない場合は語句の意味調べをすることを習慣付ける。 ・教科横断的な指導を心掛け、国語辞典が手に取れる環境づくりをしていきたい。意味が複数ある場合は、活用例を見て正しく言葉を使えるよう指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は84.8%と、市の平均と比べて3.8ポイント上回った。 ○『ドッジボールがよい』という意見について、自分の考えを理由を挙げながらまとめる」についての設問では、正答率が92.2%と市の平均正答率を11.4ポイント上回り、自分の考えを理由を挙げて書くことができた。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉える問題の正答率が低かった。	・話し合う機会を更に取り入れ、話す力と聞く力を高めるために、グループ内で司会などの役割を決め、自分の役割にあった発言ができるように指導していく。 ・各教科において、意見を簡潔にまとめて整理して話し合いをスムーズに進めたり、根拠を明確にして自分の意見を伝えたりできるよう指導していく。 ・授業の中で、話し手聞き手となる機会を意図的に設け、話の内容の要旨を捉える力を伸ばしていきたい。
書くこと	平均正答率は33.2%と、市の平均と比べて14.0ポイント下回った。 ●書くことの平均正答率は、分量・段落分け・構成ともに市の平均正答率を下回っていた。26.6%が無回答であり、市の平均と比べて、無回答が多かった。	・単元の末にある短文作りなど短い文章を書く機会を増やし、段落の役割について理解したり、内容を明確にして文章を書いたりする力を身に付けさせる。 ・単元の初発の感想や単元末の学習後の感想など、自分の考えを書く機会を設け、それを共有するなどして、学級全体の児童の書く力を高めていく。 ・教科横断的な指導を行い、様々な教科において提示された条件にあった文章を書く機会を設ける。
読むこと	平均正答率は64.5%と、市の平均と比べて3.9ポイント上回った。 ○物語文では、登場人物の気持ちや指示後の内容を、叙述を基に捉えることの正答率が高い。 ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する問題の正答率は34.4%で、市の平均を上回っているが、無回答率が45.3%であった。	・物語文では場面の様子や登場人物の心情を丁寧に読み取って、登場人物の心情の変化等を叙述を基に捉えることができるように指導していきたい。 ・説明文では、内容の要点を捉えるために、中心となる語や文に着目させる。文章を要約する際にも、中心となる語や文を見つけて文章にまとめられるよう指導していく。

宇都宮市立築瀬小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.9	57.4	56.9
	図形	62.5	58.7	60.1
	測定	55.1	48.1	45.7
	データの活用	61.5	54.9	54.3
観点	知識・技能	59.7	56.6	56.2
	思考・判断・表現	59.9	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

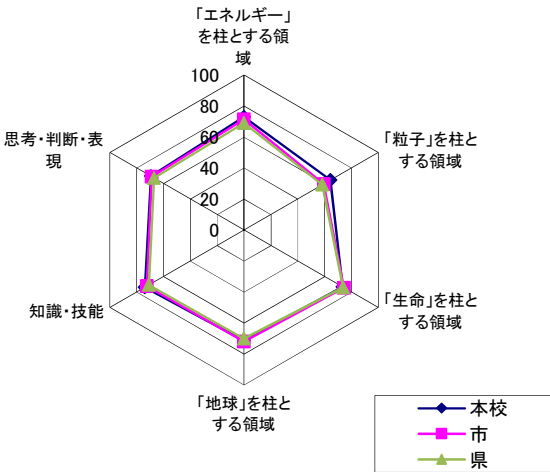
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率が59.9%と、市の平均と比べて2.5ポイント上回った。 ○15問中10問が市の平均を上回っている。 ○数直線を読み取る問題では、市の平均を10ポイント近く上回っており、よく理解できている児童が多い。 ●筆算を使う基本的な計算問題が、市の平均を下回っている。特に繰り下がりのある引き算の問題では、市の平均を3.9ポイントも下回っている。 ●分数の計算の仕方を説明する問題では、40.6%と正答率が低く、市の平均と比べても3.2ポイント低い。 ●わり算の間違いを説明する問題では、市の平均と変わらないが、正答率が25%であった。また、無回答が26.6%であった。	・繰り下がりのある引き算、掛け算の筆算などの基本的な計算を定着させるため、ミニテストやスマイルネクストなどを活用し、繰り返し学習する機会を設ける。 ・やり方や間違いを説明する問題に慣れるように授業の中で友達と説明し合う活動を取り入れたり、ノートにやり方をまとめる活動を取り入れたりする。
図形	平均正答率が62.5%と、市の平均と比べて3.8ポイント上回った。 ○箱の長さを利用して球の半径を求める問題の正答率が市の平均と比べて6ポイント上回った。授業で実際に体験したことが功を奏していると考えられる。 ○作図の問題の正答率が市の平均より7.5ポイント高い。しかし正答率は40.6%であり、半数以上の児童が正答できていない。 ●球を平面で切り取った切り口の形に対する問題では、市を1ポイントほど下回っており、県の平均と比べると5.2ポイント下回っている。	・実際に具体物を使用して体験をする活動を取り入れ、実感をもって知識や理解の定着を促すように、今後も継続していく。 ・授業の中だけでなく、生活の中で図形を感じられるよう支援する。 ・コンパス等の道具の特性についての理解を深め、根拠をもって作図できるよう指導する。
測定	平均正答率が55.1%と、市の平均と比べて8ポイント上回った。 ○すべての問題で市の平均を上回っている。特に、秤を使って重さを読む問題では、11.8ポイントも市の平均と比べて高く、正しく目盛りを読むことができていた児童が多いことが分かる。一方で半数以上の児童が誤答している。	・基礎的な内容は身に付いているので、引き続き基礎・基本の定着を図り、更に発展的な問題に取り組ませることで思考力を高めていく。 ・重さの問題では、秤に計測したいものを乗せるためのかごの重さを引くことを忘れ、目盛りをそのまま読んでいた誤答が多かった。問題文をよく読むよう指導するとともに、実際に体験する機会を設けていく。
データの活用	平均正答率が61.5%と、市の平均と比べて6.6ポイント上回った。 ○すべての問題で市の平均を上回っている。特に目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ問題では、市の平均より10ポイント近く上回り、棒グラフの意味や特徴をよく理解できていることが分かる。	・基礎的な内容は身に付いているので、引き続き基礎・基本の定着を図り、更に発展的な問題に取り組ませることで思考力を高めていく。 ・社会科の資料の読み取りや、理科の実験の記録等でも、算数での学習を生かし、データを読み取ることができるよう指導していく。

宇都宮市立築瀬小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	73.0	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	64.4	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	73.4	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	71.2	72.0	70.1
観点	知識・技能	73.9	72.5	70.9
	思考・判断・表現	69.5	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率が73%で、市や県と同程度であった。 ○「電気の通りの名称を答える」問題は、正答率が74.2%で市より9.1ポイント上回った。 ●音の伝わり方に関する2つの問題の正答率は、74.2%、60.6%と、それぞれ市の平均よりも5.5ポイント程度下回った。	・用語などの知識が定着しており、今後も理科的な言葉を意識的に用いたり、繰り返し確認したりすることを継続していく。 ・実験や観察を充実させ、実体験による理解ができるように指導していく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は64.4%で、市の平均を5.1ポイント上回った。 ○「重さをそろえた異なる材質のおもりの体積を実験結果から推測する」問題の正答率は、45.5%と市の平均より8.8ポイント上回った。 ●「粘土の形と重さの関係」について問う問題の正答率43.9%は市の平均より16.9ポイント上回ったが、依然として低い値であり、課題が見られる。	・繰り返し実験や観察を行ったり、実験結果のまとめを丁寧に行ったりすることで、知識として定着させていく。 ・日常生活の事象と結び付けて考えさせる事で、実感を伴って考えられるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は73.4%で、市の平均と同程度であった。 ○「モンシロチョウのたまごと幼虫の特徴」を問う問題では、正答率が93.9%と高かった。 ●「モンシロチョウとトンボの育ち方の違いを説明する」問題では、正答率が40.9%と低かった。	・調べたことや観察した結果について、自分の言葉で書いて説明したり話し合ったりする機会を増やし、分かったことを表現することに慣れさせる。 ・実験や観察の結果を見るときに、比較したり相違点を考察したりして、考えさせるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は71.2%で、市や県と同程度であった。 ●「温度計を使った地面の温度の測り方」の問題では、正答率が77.3%と市より6.5ポイント下回った。	・実験を行う際には、道具の扱い方とともに「なぜそうするのか」という根拠についても指導していく。

宇都宮市立築瀬小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習について、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」では、70.1%の児童が肯定的回答をしており、県と比べて7.3ポイントも上回った。また、「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」の問いにも77.6%が肯定的回答を示しており、県全体の回答より、6.2ポイントも上回った。自ら進んで学習に取り組む姿勢が高いことを示している。

○●学習時間について、平日にどれくらい勉強をするかの問いには、3時間以上と回答した児童の割合は、14.9%おり、市町や県全体と比べて10ポイントも上回った。しかし、割合は少ないものの、全くしないと回答した児童も見られた。一人一人に合わせた学習方法や内容を示していく必要がある。

○読書について、平日1時間以上または2時間以上本を読むと回答した児童割合は28.4%と市や県全体の回答を大きく上回っている。また、1か月に11冊以上本を読むという回答も38.8%であった。本の読み聞かせボランティアの活動や学校全体で取り組んでいる読書指導を今後も継続して行っていく。

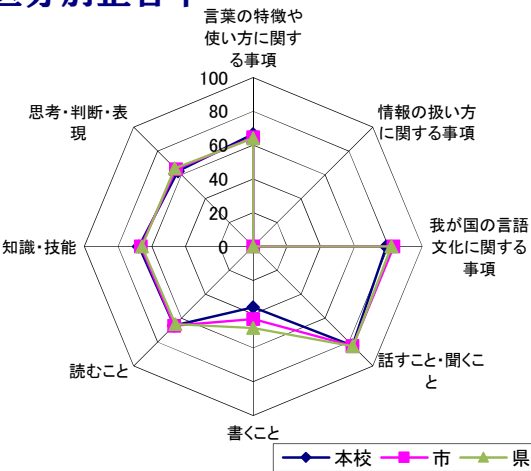
○●学級での発言のしやすさについて、「クラスは発言しやすいふん囲気である。」の問いに、50.8%の児童は、自信をもって「はい」と回答しているが、否定的回答をしている児童も20.9%おり、全児童の発言力を高めていきたい。そのために学級での話し合い活動をより多く取り入れていく。また、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」の問いに自信をもって「はい」と回答した児童割合は、50.8%と市町全体や県全体と比べて10ポイント以上上回った。話し合いの機会と合わせて話し合いの方法やルールをしっかり指導していく。

○「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。」の問いには、77.6%の児童が肯定的回答を示しており、市全体や県全体より5ポイント以上、上回っている。地域の方の学校への教育参加や地域の行事への児童参加の機会が多いことも、本校児童の関心を高めている要因と考えられる。

宇都宮市立築瀬小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.5	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	78.8	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	83.0	83.3	83.4
	書くこと	36.0	42.8	48.2
	読むこと	66.3	66.1	65.1
観点	知識・技能	67.7	66.5	65.9
	思考・判断・表現	62.9	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

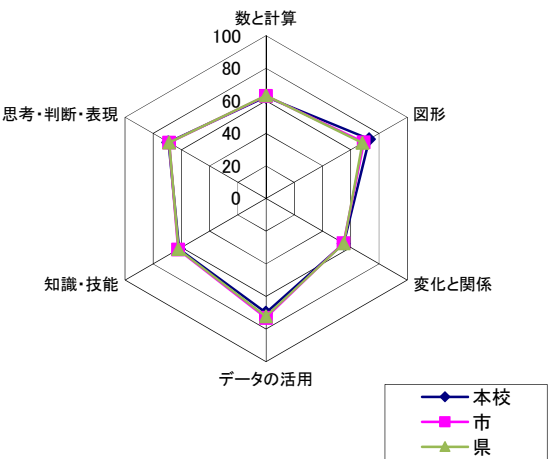
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率が66.5%であり、市の平均と比べて1.8ポイント上回った。 ○「試み」の漢字を正しく読むことについて、市の平均と比べて12.7ポイント上回った。 ●「反省」の漢字を正しく読むことについて、6.7ポイント下回った。 ●連用修飾語が他の項目に比べてかなり低い。	・漢字の読み書きについては、引き続き家庭での自主学習を促すとともに、小テストや復習を継続して実施し、定着を図りたい。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率が78.7%であり、市の平均と比べて4.4ポイント下回った。 ●「ちりも積もれば山となる」の使い方について正しい答えを選択している児童の割合が、市と比べて4.4ポイント、県と比べて3.2ポイント下回った。	・言語由来に関心をもち、和語や漢語、外来語についての理解を深めることができるように、新出漢字の学習の際、漢字の由来や熟語の学習を行う時間を引き続き設ける。
話すこと・聞くこと	平均正答率は83%であり、市の平均とほぼ同等であった。 ○話し手の工夫について説明した文を選ぶ、参加者の発言の内容を基に司会者の発言として適したものを選ぶ問題は、市の平均をわずかに上回った。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉える、自分の考えを理由を挙げながらまとめるについては、市の平均をわずかに下回った。	・今後もテーマに沿った話し合い活動や伝えたいことは何なのかを考えながら聞く活動を取り入れていく。 ・グループでの話し合い活動では、自分の考えをもったり、理由を考えたりする時間を十分取れるよう配慮する。
書くこと	平均正答率が36%で、市の平均を6.8ポイント、県の平均を12.2ポイントも下回った。 ●指定された行数で書く、2段落構成で書くこと、1段落目、2段落目それぞれに指定された内容を書くことのいずれも市の平均を5ポイント以上下回っている。また、25.3%が無回答であり、時間配分や課題への取り組み方に課題があると思われる。	・25.3%の児童が無回答ということから、書くことに対する苦手意識がうかがえる。授業でも構成を考えたり、テーマや条件を設定したりして文章を書かせるようにしていく。また、宿題で日記を書かせたり、行事等の振り返りをきちんと文章で書かせたりして文章を書くことに慣れ親しむようにさせる。
読むこと	平均正答率が66.3%であり、市の平均とほぼ同等であった。 ○登場人物の気持ちに適した言葉を選ぶこと、文章を読んで考えたことについて空欄に適した言葉を選ぶことは、市の平均正答率をやや上回った。 ●場面の様子について、発言者を捉えること、指示語の内容を捉えることは、市の平均正答率をやや下回った。	・今後も学校図書館を利用し、子供たちが読書に進んで取り組めるようにしていく。 ・物語文では、登場人物の心情のみならず、心情の変化やその要因などを文章に即して読み取れるよう指導していきたい。 ・説明文では、文章の構成に着目させたり、指示語の働きを捉えさせたりして、筆者の伝えたいことを要約できるよう指導したい。

宇都宮市立築瀬小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.4	63.0	63.3
	図形	73.0	69.2	68.3
	変化と関係	55.1	54.8	55.0
	データの活用	70.0	73.1	72.3
観点	知識・技能	61.7	62.3	62.1
	思考・判断・表現	69.2	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

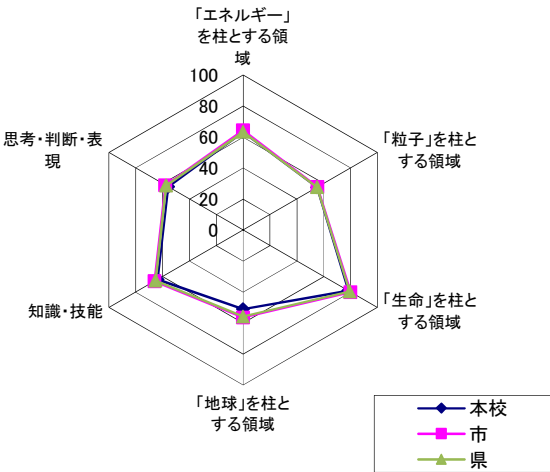
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率が62.4%であり、市の平均とほぼ同等であった。 ○小数のわり算の計算の問題では、市の平均57.5%に対して、校内の平均65.3%と7.8ポイント上回っており、計算の仕組みを理解できていることがわかる。 ○数直線上の目盛りが示す分数を読み取り仮分数で表す問題では、市の平均が48.6%、校内の平均が54.7%と6.1ポイント上回っており、分数の表し方を理解できていることが分かる。 ●大きい数の仕組みの理解を問われる問題では、市の平均37.6%に対して、校内の平均30.7%と6.9ポイント下回っている。	・基礎的な計算力をさらに高めるために、計算ドリルやAIドリルを併用し、定着度に応じた問題や復習に取り組めるようにする。 ・大きい数や小数の仕組みを理解し、計算のきまりにそって計算できるようにする。 ・授業の展開においては、図や式を用いて考え、自分の言葉で式の意味や計算の仕方を説明できるよう、ペアやグループで話す機会を設ける。
図形	平均正答率が73%であり、市の平均を3.8ポイント上回った。 ○ものの位置の表し方から、もとにする位置を選ぶ問題では、市の平均は65.4%、校内の平均は70.7%と5.3ポイント上回っている。 ●図形の問題は全て市の平均を上回っているが、三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める問題では、無回答率が高い。	・三角定規のきまりを基に別の角度を求めたり、360度から減法を用いて表す方法をなど、授業で扱う問題について複数の解答を示すことで、問題を多面的に捉え、柔軟に対応できるようにしていく。 ・図形においては、具体物を用意し、より児童の思考が深まるように支援していく。
変化と関係	平均正答率が55.1%であり、市の平均とほぼ同等であった。 ○割合を使った長さを求める問題では、平均41.8%に対し、校内の平均は44.0%と1.8ポイント上回った。 ○●表から伴って変わる2つの数量の関係を読み取る問題はできているが、その関係を式に表す問題では正答率が大きく下がってしまう。また無回答率も14.7%であった。	・授業において、「基にする量」を意識させながら、2つの数量の関係性を式や数直線などに表す機会を設ける。 ・文章問題を立式する際に、図に表す活動を設け、式の意味をイメージできるようにし、なぜそのような式になったのかを児童自身に説明させて共有し、学級全体の理解を深めるようにする。
データの活用	平均正答率が70%であり、市の平均を3.1ポイント下回った。 ○二次元の表の意味を理解しているかどうかの問題では、正答率は市の平均と同等または高かった。 ●折れ線グラフの変化や、折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから傾向を読み取ったりする問題では、正答率が市の平均と比べ、9ポイント下回っている。 ●どの問題も無回答の児童が10～13%程見られる。	・グラフの読み取りについては、算数の授業に限らず、理科や社会科等、他教科に渡って指導を続けていき、理解を深めていく。また、自分の考えをまとめられるような意図的な場を設けていく。 ・考えをまとめる際の手立てとして、時間的な変化や、変化の特徴、その傾向に注目させるように指導していく。

宇都宮市立築瀬小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	63.3	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	55.1	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	78.4	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	51.0	56.4	55.8
観点	知識・技能	63.7	66.0	65.3
	思考・判断・表現	55.9	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は63.3%であり、市の平均をやや下回った。 ○電流が流れない回路を改善できるかどうかをみる設問では、市の平均を6.5ポイント上回った。 ●検流計のしくみや、乾電池のつなぎ方を変えた時の電流の向きや大きさについての理解をみる設問では、選択式にもかかわらず市の平均正答率を8.2ポイント下回った。	・グループ学習などを効果的に取り入れ、機器の取り扱い方を互いに教え合うようにするなど、学び合い学習を行うとともに、用語などの知識を繰り返し押さえることで知識や技能を身に付けられるようにする。 ・実験や観察をして得られた結果をまとめるだけでなく、実験方法の意図や結果の理由などもしっかり考えさせるとともに、図や自分の言葉でまとめる学習を継続していく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は55.1%であり、市の平均とほぼ同等である。 ○湯気について理解しているかどうかをみる設問では、市の平均正答率を5.9ポイント上回った。 ●エアコンの吹き出し口の向きが変化した理由を、あたためられた空気の動きと関連付けて考える記述式の設問では、正答率が32%と低く、市の平均正答率を6.6ポイント下回った。無回答率も5.3%だった。	・「粒子」の領域は、具体物としての提示が難しいため、視覚的に確認できるような工夫をしたり、ICT機器等を活用したりして、既習の内容や生活との関連を提示するとともに、日常生活の経験の中で、学習内容との関わりを積極的に情報提供する。 ・実験や観察をして得られた結果をまとめるだけでなく、実験方法の意図や結果の理由などもしっかり考えさせるとともに、図や自分の言葉でまとめる学習を継続する。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は78.4%であり、市の平均を1.7ポイント下回った。 ○動物の越冬について調べた結果を基に、考察を導き出す設問では、正答率が90.7%と高く、市の平均を1.9ポイント上回った。 ●関節について理解しているかどうかをみる短答式の設問は、市の平均正答率をやや上回ったものの、無解答率が8.0%と高かった。	・ICT機器等を活用して動植物の成長に関する情報をたくさん提供するとともに、定期的に校庭や中庭の動植物の観察と記録をさせることで、動植物に関心をもち、成長の過程を押さえる。 ・人体模型で再確認するとともに、実際に自分や友達の体に触れ、具体的に骨や関節について理解させる場面を設定する。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は51%であり、市の平均を5.4ポイント下回った。 ●この領域は他の領域と比較し、正答率が低い傾向にある。 ●水たまりのできにくさについて、水のしみこみやすさと関連について表現できるかどうかをみる記述式の設問では、正答率が32.0%と低く、市の正答率を10.0ポイント下回った。無解答率は2.7%と低かった。	・学習内容が生活や自然現象のどのような場面と結び付くのか振り返ることで理解を深められるようにする。 ・児童がイメージをもちやすくなるように、具体物を使った観察・実験を行うとともに、ICT機器を使って動画や画像で確認するなどして、知識・理解の定着を図る。 ・実験や観察をして得られた結果をまとめるだけでなく、実験方法の意図や結果の理由などもしっかり考えさせるとともに、図や自分の言葉でまとめる学習を継続する。

宇都宮市立築瀬小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○●家庭学習について、「平日、1日あたり1時間以上勉強をしている」と回答した児童は6割を超えている。一方で、30分未満と回答した児童も1割いることから、家庭学習の定着にばらつきがあることが分かる。家庭学習強化週間を設けるなど啓発を行い、児童と家庭へ働きかけていく。

○「毎日の生活が充実していると感じる」「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的回答の割合がいずれも8割を超えていることから、自己肯定感が高く、未来に希望をもって生活している児童が多いことが分かる。自分の得意なことを認めたり、これからの自分に必要な課題等を考える機会を設けたりしながら、自信をもって学習や生活に取り組めるよう指導していきたい。

○「授業では、クラスの友達と話し合う活動をよく行っている。」と回答した児童は9割を超えている。また、「クラスは発言しやすい雰囲気である」と回答した児童が8割、「話し合い活動に進んで参加している」と回答した児童は7割であることから、普段から活発な話し合い活動が実践されていることが分かる。今後もペア・トリオ学習やグループ学習を積極的に設け、活発な話し合い活動を推進していく。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」と回答している児童が4割程度と少ない。このことから、自分の考えに自信をもって発表することができていない児童が多いことが分かる。朝の時間の1分間スピーチやトークタイムを活用し、人前で話す場を設定していくとともに、聞き手側にも「認め、褒め、励ます」指導を行いながら、よりよいコミュニケーションが取れるよう工夫して指導していきたい。

●「平日、テレビや動画などを3時間以上見る。」と回答した児童は3割を超えている。また、「ゲーム等で遊んだりする時間」が3時間を超える児童も3割を超えている。テレビや動画、ゲームの時間を学習や運動、読書等の時間に充てられるよう、家庭への働きかけを推し進めていく。

○●8割の児童が、各教科の学習内容がよく分かったと肯定的回答をしている一方で、その教科の学習が好きであるかどうかという設問に対しては、肯定的回答をする児童の割合が少なくなる傾向がある。特に算数や社会については、好きであると回答した児童は5割ほどであることから、学ぶ楽しさを感じられるよう工夫して指導していきたい。

宇都宮市立築瀬小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学ぶ意欲を高めるための学習課題の設定	資料やICT機器を活用し、児童の興味・関心を高める導入に努めるとともに、教師の問いかけを基に考えさせることで、より深化した学習につなげるための工夫を行っている。	「授業を集中して受けている。」の質問に対する肯定的回答が88%だったのに対し、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思う。」の質問では、肯定的回答をする児童の割合が減少する結果となった。今後も、児童の実態に合わせた学習課題の設定に努めていきたい。
児童同士が学び合える活動の工夫	ICT機器や図書等を効果的に活用するなど、学習内容や発達段階に合わせた学習形態の工夫を行うことで、児童同士が互いに学び合える授業を工夫している。	「話し合い活動に進んで参加している。」の質問に対する肯定的回答は7割程度と、多くの児童が話し合い活動に積極的に参加していることが分かる。今後は、発言することに対して抵抗のある児童でも自信をもって自分の意見を伝えられるよう、学習形態の更なる工夫を行ってきたい。
各教科の特性を生かした振り返りの工夫	振り返りの視点を示した掲示物を活用し、授業で分かったことや気付いたことを表現できるようにしている。また、それらを児童同士で共有することで新たな気づきにつなげられるようにしている。	「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている。」の質問に対する肯定的回答は9割だった一方で、振り返りの活動における質問では肯定的回答をする児童の割合が減少する結果となった。今後は、振り返りの機会を意識的に増やすとともに、学びを共有し、深め合えるよう努めていきたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
資料や文章から必要な情報を抽出し、文章化することに対して課題が見られる。また、問題に対して、結果から正しく考察することにも課題があることから、読み取りの学習が必要であることが分かった。	様々な場面での資料の活用	資料や図を活用し、得られた情報から分かったことを話し合ったり確認したりするとともに、簡潔にノートにまとめる活動を取り入れるなど、教科横断的な学習指導を行っていく。